



# 題材法話

浄土真宗のみ教え ⑬  
「聞くことは信心な

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の18頁をお読み下さい。

阿彌陀様の「すべてをまかせよ。必ず救うぞよ」との呼び声（本願）に、「そうでございましてか。おまかせいたします」とそのまじ聞かせて頂く。この時すでに私達の救いが成立しているのだと味わいました。

この「そのまま聞かせて頂く」ことが浄土真宗における「信心」です。「聞即信」つまり「聞くことがすなわち信心」なので、本意を自分で判断しないので、それ、私の



子の絆です。  
親は義務感で、幼子を  
育むのではなく、幼子を  
は理屈抜きにすべてを  
親にまかせます。これ  
は疑いなく信じ合っ  
ている世界に思えます。

「オレオレ詐欺」や「振り込め詐欺」は、子を思う親心があるからこそ成立する卑劣な行為です。ところがこの真実と考える親子の絆も、悲しきかな人間界では完全に通すことが出来ないのである。親の愛も一度たがが外れると「育児放棄」のような悲惨な状態に陥ることもありま

また子供も物心がつき人間として自分と先立つて親素直に聞けなす。



身についてしまつてい  
るところが、あります。  
ても、それが、お念仏に  
ても、この教えなら、信  
じられる、という、実感  
が、わかない、  
「聴聞し

て、浄土真宗では嫌わ  
「自力の信心」とし  
つかみ取ろうとする  
しまつてゐるのです。  
を自分自身で閉ざして  
疑つてゐることにな  
らず、阿弥陀様の願  
は阿弥陀如来の救い  
聞くのであれば、それ  
聞かぬとすれば、それ  
こりです。

ない」「このままで  
救われるとは思えな  
い」といつた思いが起  
こります。

自分の勝手な思いで

じ ○ 蓋ある水に月は宿ら  
 れるのです。  
 が 一休禪師と蓮  
 が 同時代の人で  
 あったことはこ  
 にも紹介しまし



それに対する蓮如上人  
の返歌が、  
「阿弥陀にはへだつ  
ところはなけれども、  
蓋ある水に月は宿ら  
じ」

とい う 歌 だ。ま は 一 休 禪 師 は、一 仏 生  
 を 救 お う と さ れ る は ず  
 な の に、阿 弥 陀 は 〽 た  
 の む 〽 す べ て を ま か せ  
 る 〽 と い う 衆 生 し か  
 救 わ な い。本 当 の 慈 悲  
 が 無 い の で は な い  
 か？」と 真 宗 の 教 え に  
 皮 肉 を 込 め ら れ る の で  
 す が、蓮 如 上 人 は 一 阿  
 弥 陀 は、月 が あ ら ゆ る  
 と ころ を 照 ら す よ う  
 に、分 け 隔 て な く 救 お  
 う と さ れ て い ま す。け  
 れ ど も 自 分 の 方 か ら 蓋  
 を し た 水 に は 月 は 宿 ら  
 な い の で す。」と 仰 っ て  
 い る の で す。

し た 一 休 禪 師 も よ く 了 解  
 歌 の や り 取 り で す。深 い